

学生の意識調査(R7) 中間報告書(速報ダイジェスト版)

李永俊(弘前大学)
花田真一(弘前大学)

調査の概要

・調査目的

青森県における、若者（県内大学生）の県内定着に向けた取組を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

・調査対象

あおもり人材育成・県内定着促進協議会参画の全高等教育機関等

- ・弘前大学は、医学部医学科を除く。
 - ・北里大学獣医学部は、十和田キャンパスに在籍の2年次以降の学生とする。
 - ・八戸工業高等専門学校は、4、5年次、専攻科1、2年次（大学1～4年次に相当）の学生とする。
- ※青森職業能力開発短期大学校は、他機関等と同様に本調査を実施するが、個別集計とする。

・調査方法

WEB調査（Microsoft Formsによる集計。チラシを配布し、QRコードでアクセス）

・調査期間

2025年4月1日～8月31日

・回収状況

回答数 7,225(48.4%)（内訳：1年生 2,646／2年生 1,900／3年生 1,454／4年生 1,225）

※八戸高専の高専4年(17名)、高専5年(17名)、専攻科1年(1名)、専攻科2年(3名)を、それぞれ大学1年生、2年生、3年生、4年生に変換した。

※ 中間報告書での学系分類について（資格取得をベースに分類）

文 系：文学部・人文社会科学部・経営経済学部・総合経営学部・社会学部・経営法学部・社会福祉・地域経営・福祉専攻
・コミュニティ福祉・生活科

教育学系：教育学部・生活創生学部（幼保の資格が取れるため）・幼児保育・保育専攻・保育科

理 系：ソフトウェア情報学部・理工学部・高専・工学部・感性デザイン学部・農学生命科学部

保健学系：保健学科・健康科学部・看護・助産・保健学部・健康医療学部・食物栄養（管理栄養士は保健と分類）・救急救命・口腔衛生
・介護福祉学科・調理師養成・介護福祉

薬 学 系：（薬剤師は免許が異なるため）

獣医学系：（獣医師は免許が異なるため）

令和7年度の傾向

属性		希望初職地		カイ二乗 検定結果	合計 (括弧内人数)
		県内	県外		
性別	男性	32.0	68.0	***	100.0(3,350)
	女性	42.0	58.0		100.0(3,834)
出身地	県内	57.6	42.4	***	100.0(4,422)
	県外	5.0	95.0		100.0(2,762)
学年	1年生	40.1	59.9	***	100.0(2,632)
	2年生	37.1	62.9		100.0(1,888)
	3年生	33.8	66.2		100.0(1,447)
	4年生	36.3	63.7		100.0(1,217)
計		37.4(2,685)	62.6(4,499)		

○出身地別の傾向

県内出身者の県内希望者割合

令和6年度 59.8%

令和7年度 57.6% -2.2

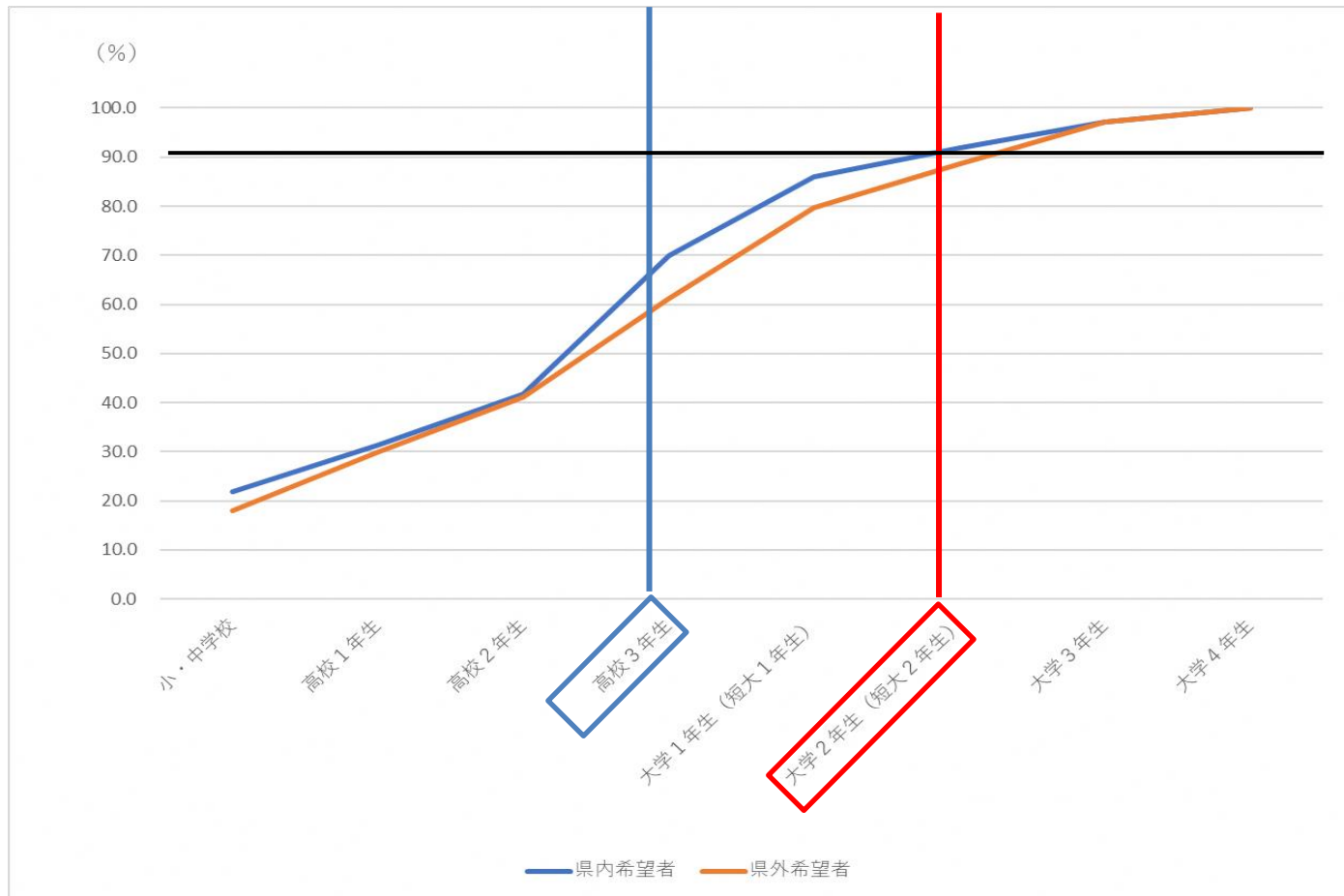
○学年別の傾向

学年が上がるほど県外志向
が強まる傾向は令和6年度と
同様の傾向

属性		希望初職地		カイ二乗 検定結果	合計 (括弧内人数)
		県内	県外		
性別	男性	33.9	66.1	***	100.0(2,088)
	女性	43.4	56.6		100.0(2,826)
出身地	県内	59.8	40.2	***	100.0(3,090)
	県外	5.0	95.0		100.0(1,845)
学年	1年生	41.8	58.2	***	100.0(1,816)
	2年生	40.8	59.2		100.0(1,326)
	3年生	35.9	64.1		100.0(925)
	4年生	35.5	64.5		100.0(868)
計		39.3(1,940)	60.7(2,995)		

追加設問から見える傾向

- **大学入学前までに、県内希望者の約7割、県外希望者の約6割が希望初職地を決定している。**
- 大学2年生までに、約9割の学生が意思を決定している。



第2章 希望初職地決定の時期別希望理由

- 県内希望者は、大学入学前には「住み慣れていて便利だから」「出身地域が好きだから」「親や家族を支えたいから」といった理由を重視。大学入学後は「就職後の生活が精神的に楽だと思えるから」を「出身地域が好きだから」よりも重視する傾向がみられた。
- 県外希望者は、大学進学前には「都会の方が便利だから」が、大学1～2年次には「出身地とは異なる地域で生活してみたいから」、大学3～4年次には「希望する企業があるから」が最も多く挙げられた。

(複数回答)

希望理由	大学進学まで		大学1～2年		大学3～4	
	県内	県外	県内	県外	県内	県外
自分の能力が活かそうだから	17.1	21.8	11.6	17.2	17.7	23.6
希望する企業があるから	11.2	33.9	11.8	29.6	18.7	43.4
知人が多いから	28.4	8.2	34.1	8.0	23.4	11.3
親や家族を支えたいから	51.2	7.4	46.1	6.2	47.8	3.8
出身地域が好きだから/その地域が好きだから	51.8	23.3	34.9	18.7	36.4	13.7
就職後の生活が精神的に楽だと思えるから	39.0	13.5	41.2	10.9	41.6	12.3
希望する給与や待遇が期待できるから	2.9	37.7	4.5	32.7	5.3	31.1
物価が安く、経済的な負担が少ないから/出身地域と別の場所で生活してみたいから	14.9	45.5	17.7	42.3	21.5	38.7
親と家族の勧めで	9.3	3.0	9.7	1.9	10.5	1.9
奨学金を借りているから	11.1	2.9	15.8	2.9	16.3	3.3
住み慣れていて便利だから/都会の方が便利だから	62.3	50.8	53.9	40.9	49.3	37.7
男女の雇用機会の均等が図られているから	1.4	2.6	2.0	3.1	0.0	2.8

情報源に関すること

新聞・雑誌・企業のパンフレット、合同会社説明会のようなイベントの利用が多い。

(複数回答)

情報源	希望初職地	
	県内	県外
新聞・雑誌・企業のパンフレット	34.7	34.3
各企業等の採用ホームページ	0.1	0.4
就職情報サイト（マイナビ等）	11.3	12.6
ハローワーク、ジョブカフェなど	3.1	3.0
民間の職業紹介所	14.2	16.7
合同会社説明会のようなイベントで	33.4	24.7
学校の就職支援センターなど	17.8	10.8
両親の紹介	6.7	4.9
両親以外の家族、親戚の紹介	9.9	9.9
親しい友人の紹介	0.9	1.3
あまり親しくない知り合いの紹介	1.2	2.0

※注釈

R6の調査結果で「インターネット」の利用が多いことが判明。R7年度は具体的な情報源を細分化して調査した。

その結果、インターネットの利用を含めた手法で様々な情報源にアプローチしていることが分かる。

インターンシップなどと希望初職地

- 企業見学、インターンシップ、トライアル雇用については、県内出身者では統計的に有意な差は認められなかった。
- 一方、県外出身者では、インターンシップおよびトライアル雇用において統計的に有意な差がみられ、一定の影響があることが示唆された。

県内出身者

		希望初職地		カイ二乗 検定結果	合計 (括弧内人数)
		県内	県外		
企業見学	あり	57.4	42.6	n.s.	100.0(1,189)
	なし	57.7	42.3		100.0(3,233)
インターンシップ	あり	58.4	41.3	n.s.	100.0(806)
	なし	57.4	42.6		100.0(3,616)
トライアル雇用	あり	55.2	44.8	n.s.	100.0(58)
	なし	57.7	42.4		100.0(4,364)

注) n.s.は統計的に有意でないことを示す。

県外出身者

		希望初職地		カイ二乗 検定結果	合計 (括弧内人数)
		県内	県外		
企業見学	あり	5.6	94.4	n.s.	100.0(679)
	なし	4.8	95.3		100.0(2,083)
インターンシップ	あり	6.6	93.4	*	100.0(392)
	なし	4.7	95.3		100.0(2,370)
トライアル雇用	あり	18.4	81.6	***	100.0(38)
	なし	4.8	95.2		100.0(2,724)

注) n.s.は統計的に有意でないことを示す。***、*印は1%、10%水準で有意であることを示す。

就職先を選ぶ条件

- 就職先を選ぶ際に重要だと思う条件については、全ての産業で大きな違いはみられなかった。
- 「労働環境がいい」「休日・休暇が多い」「給料が高い」「福利厚生が整っている」といった点が共通して重視されている。

(複数回答)

	希望産業							
	公務	農林漁業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	卸売・小売業	医療・福祉
希望の勤務地で働ける	33.1	32.6	33.0	29.6	30.0	27.6	29.6	29.3
仕事内容が魅力的	33.1	34.0	37.2	36.4	28.9	29.2	32.0	27.0
労働環境がいい	61.5	61.9	56.0	61.7	56.3	63.3	56.0	65.7
休日・休暇が多い	48.2	50.7	47.7	44.4	54.2	50.3	50.4	41.7
福利厚生が整っている	44.5	37.2	40.4	45.4	50.5	44.9	44.7	50.8
将来性がある	12.6	15.3	18.8	18.8	17.4	17.1	17.3	13.1
社会への貢献度が高い	8.1	12.1	9.2	5.9	7.9	4.6	8.1	7.2
給料が高い	46.2	40.5	46.3	45.7	43.2	47.6	44.0	55.6
大企業や有名な会社	1.3	1.9	5.5	2.5	2.1	3.0	4.2	0.7
親や先生の勧め	0.8	0.5	0.0	0.9	0.5	0.2	1.4	0.4
公共交通機関をはじめ生活の利便性が高い	7.0	7.9	2.3	4.6	3.7	5.7	6.3	6.6
在宅勤務やテレワークなど自由な働き方	2.9	3.3	2.8	3.1	3.7	6.2	4.9	1.2
その他	0.1	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1

県内企業のイメージ

(複数回答)

	希望初職地	
	県内	県外
小規模・零細な企業が多く、大企業が少ない	56.0	60.2
地域に密着した仕事に携われる	41.1	39.7
アットホームで親しみやすい雰囲気がある	25.5	26.2
労働条件（賃金や福利厚生など）が悪い	30.5	39.7
将来性がなく、時代に合った仕事が少ない	15.5	24.7
研究開発や企画部門が少ない	10.2	15.2
下請けが多い	11.8	20.1
技術力・専門性がある	0.0	0.0
経営が不安定で計画性がない	6.5	10.6
仕事にやりがいや誇りをもてる	8.6	5.4
女性労働者が多い	2.9	2.1
ワークライフバランスを実践できる	6.3	5.6
性別による役割分担がある	15.0	12.9
性別による賃金格差がある	0.3	0.4

青森県内企業に対するイメージについては、希望初職地の違いによる差はみられなかった。

R6年と同様、「小規模・零細な企業が多く、大企業が少ない」「地域に密着した仕事に携われる」「労働条件（賃金や福利厚生など）が悪い」といった項目が上位を占めている。

就職先を選ぶ条件(P5)として、各産業いずれも「労働環境がいい」ことを最重視している点に注視する必要がある。

追跡分析(R6・R7)

- 学籍番号の追跡が可能だった738名が分析対象。
- 県内出身者では、R6県外からR7県内へ、あるいはR6県内からR7県外へと希望初職地を変更した割合は、男性で18.6%、女性で19.2%に上る。
- 「R6県外→R7県内」よりも、「R6県内→R7県外」へ変更した者の割合のほうが高い。
- 1年から2年への進級過程で、R6では県内志向だった学生がR7では県外志向へと希望初職地を変更する割合が高くなっている。

属性		タイプ				カイ二乗 検定結果	合計 (括弧内人数)
		R6県外・R7県外	R6県外・R7県内	R6県内・R7県外	R6県内・R7県内		
県内	男性	37.2	7.0	11.6	44.2	n.s.	100.0(129)
	女性	29.6	7.0	12.2	51.2		100.0(213)
	計	32.5	7.0	12.0	48.5		100.0(342)
県外	男性	93.8	2.1	2.1	2.1	n.s.	100.0(192)
	女性	92.2	3.9	1.0	2.9		100.0(204)
	計	92.9	3.0	1.5	2.5		100.0(396)
合計		65.0	4.9	6.4	23.8		100.0(738)

注) n.s.は統計的に有意でないことを表す。



学生の意識変化を把握するために有効であり今後も継続。
引き続きご協力をお願いしたい。